令和６年度研究推進計画

廿日市市立佐方小学校

１　学校教育目標

「自立貢献」

～自己と地域の未来を切り拓いていく児童の育成～

２　研究主題

思考力・判断力・表現力を高め，学びを深める児童の育成

～子どもの思考に沿った国語の授業づくり～

３　主題設定の理由

昨年度まで廿日市中学校区では,「ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくり」を目指し，どの児童にも分かりやすく，ひとりへの支援がみんなへの支援につながる授業づくりを進めてきた。本校もUDの視点で授業づくりに取り組み，国語科の説明文の学習について研究を進めてきた。本質的な問いによる授業改善を生かして，教材研究や協働的な学びの場の設定を積極的に行いながら，文章の内容を要約したり，要旨を捉えたりする活動において，手立てを工夫してきた。

令和５年度に行った廿日市市学力定着状況調査の結果（全学年の国語科「説明文の内容を読み取る」項目）は以下の通りだった。

※①②③は，（上段）校内正答率・（下段）全国値となっている。

	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
本校平均	７１．６	７４．８	６８．６	６７．６	７５．１	６７．８
市平均	７６．２	８２．３	６８．９	６９．１	７３．３	６７．７
全国平均	７１．３	７９．３	６８．４	６４．２	６９．９	６６．６
①文章の内容を捉える。	８４．３ ７３．２	８８．７ ９２．５	３９．３ ３８．９	６７．８ ５３．５	８０．２ ７９．５	７１．４ ６２．４
②段落の内容を捉える。		７３．６ ７８．８	７３．８ ７０．０	６２．２ ６０．０	７９．２ ７１．９	３１．９ ３２．２
③重要な語や文を捉える。文章の情報を整理し，要約する。	６４．７ ５９．０ （重要な語句）	６８．９ ７８．９ （重要な語句）	２２．８ ２０．６ （要約）	３４．４ ３３．３ （要約）	４３．８ ３０．４ （情報整理）	５９．３ ５５．０ （情報整理）

令和４年度までは，③の「文章の中の重要な語や文を捉える力」や「文章に書かれている情報を整理し，要約したり，要旨を捉えたりする力」に主に課題があったが，少しずつ昨年度までの取組の成果が出てきていることが分かる。しかし，廿日市市の平均と比較すると，ほとんどの学年が下回っている。

１０年後，２０年後の将来を見据え，本校の児童に育てたい資質・能力は「思考力・表現力」「主体性」「自己有用感」である。特に，今年度は，研究の主体を「思考力・判断力・表現力」を高め，学びを深める児童の育成とし，その取組過程において，「主体性」や「自己有用感」を意識しながら研究を推進する。

国語科においては，課題づくりや課題解決に際し，国語科の見方・考え方を働かせて資質・能力を身に付けるその過程において，子どもがいかに思考するかを考えながら授業を組み立てる。そして，児童自ら課題意識をもって思考・判断・表現し，協働的に粘り強く課題解決に取り組み，自分と友達の考えを比べ，広げ，深めることで，学びの質を高める児童を育成することを目指す。

子どもが主体的に思考する学習展開の工夫や言語活動の工夫，効果的に協働的な学びを取り入れる工夫を主な授業改善の視点とし，互いに聞き合い，伝え合う場を設定することで，自らの考えを広げ深める力を身に付け，学ぶ楽しさを実感させたいと考え，本主題を決定した。

４　研究の仮説

・子どもの思考に沿った国語科の授業を構成することで，学びに必然性が生まれ，主体的に学びに取り組むようになるであろう。

・国語科において，児童が主体的に活動するよう言語活動を工夫し，個別最適な学びや協働的な学習の場を効果的に設定することで，児童の「思考力・表現力」が育まれるであろう。

・国語科の効果的な指導方法についての協議・研修を行い，教職員間で国語科の指導について知識を深めることで，子どもの基礎的・基本的な国語の力が身に付くであろう。

・ユニバーサルデザインを活用することで，課題のある子どもへの適切な支援を行うことができるであろう。

５　研究構想図

学校教育目標
「自立貢献」
～自己と地域の未来を切り拓いていく児童の育成～

佐方小学校研究主題
思考力・判断力・表現力を高め，学びを深める児童の育成
～子どもの思考に沿った国語の授業づくり～

思考力・判断力・表現力

【説明文】
①文章の事柄，内容，論理がどのような構造になっているかとらえる力。
②文章の表現を把握する力。
③読者として自分の考えをもちながら読む力

【つかう主な力】
比較する力・分類する力・想像する力・分析する力・構成する力・条件的に見る力・関連付ける力・自分の考えをもって読む力

【物語文】
①中心人物の変容をとらえる力
②因果関係をとらえる力
③作品の主題について考え，作品を意味付ける力

付けたい力

主体性

言語活動の充実

児童が主体的に思考する言語活動の設定

主体的な学び

自己有用感

個別最適な学び・協働的な学びの場の設定

・友達の意見に耳を傾ける
・自分の考えを伝える
・考えを比べ，広げ，深める
・学びの悩みや疑問を表現し，全体の話題にしていく
・ICT の効果的な活用

深い学び

対話的な学び

教科横断的なカリキュラムマネジメント

ユニバーサルデザインや合理的配慮を前提とする
学級経営・授業づくり
国語科の効果的な指導方法

６　研究内容

（１）子どもの思考に沿った教材研究

子どもの学びの中に，身に付けさせたい内容を組み込んでいく教材研究を行う。

身に付けさせたい内容

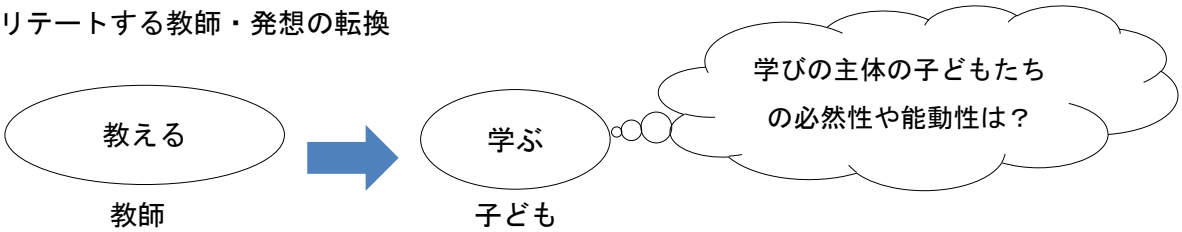
何が教えられるか・どんな力がつけられるか・教材の特徴は

＋

子どもの学び

子どもは教材のどこに疑問や魅力を感じるのか・どんな対話が生まれるか・どんな学びが創れるか

（２）ファシリテートする教師・発想の転換

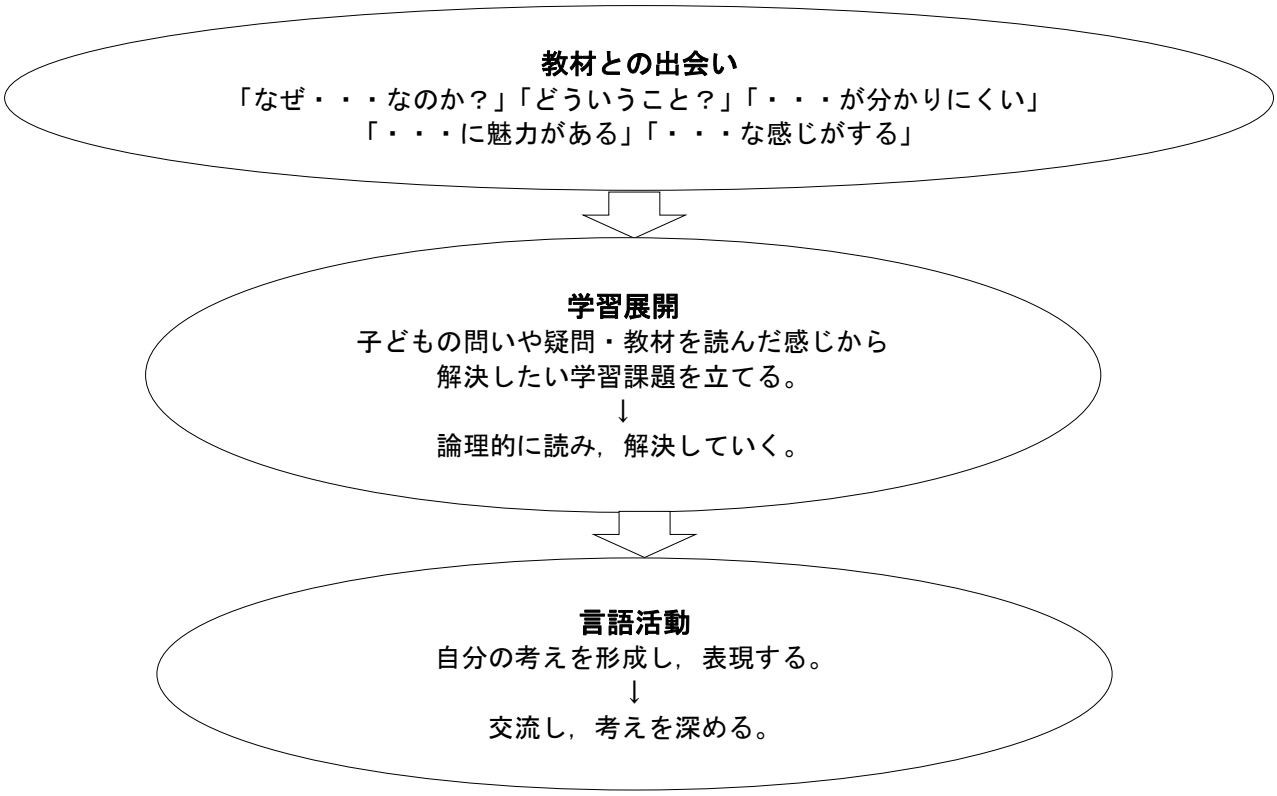


子どもたちの内なる問いかけによって教師の教えることが取り入れられ，それを子どもたちが学びとして転換していく。

ファシリテーターとしての教師の役割　＝　子どもたちの内なる問いを誘発し，学びを促す

（３）子どもの思考に沿った授業の展開

子ども達が教材に出会ったときの柔軟で素直な反応をスタートとして，子どもが問いをもち，その問いを論理的に解決し，自分の考えを創り上げていく。



（４）子どもが主体的に思考する言語活動の工夫

各学年において，小学校学習指導要領解説・国語編には，〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃ　読むことの言語活動例が以下のように示されている。

主として説明的な文章を読んで分かったことや考えたことを表現する言語活動例

低学年	中学年	高学年
事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。	記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。	説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。

主として文学的な文章を読んで内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする言語活動例

低学年	中学年	高学年
読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。	詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。	詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

言語活動例を参考に，すべての子どもが自分の考えをもち，お互いの意見を交流しながら考えを深めるために，授業や単元の中に「書く」「話す・聞く」場を設定する。友達の言いたいことを受け止めて共感したり，自分の考えとの違いを明らかにしたりすることで，子どもをつなぎ，関わらせ，応答し合いながらお互いを高め合う学びを目指す。

（５）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた工夫

子どもの語彙力や文脈を読む力などの差を生かした授業づくりを目指すため，個別最適な学びを踏まえた上で協働的な学びに広げていく。それぞれの子どもが「どんなことを考えているか」「どんなことに悩んでいるか」「どんなことに疑問を感じているか」「何がわかり，何がわかっていないのか」などを表現し，全体の話題にしていく。そして，自分と友達の考えを比べ，広げ，深めるために，互いの考えを聞き合い伝え合う場を設定することで，自らの考えを広げ深める力を身に付け，学ぶ楽しさを実感させられるようにする。

昨年度まで主に取り組んできた事項

（６）ユニバーサルデザインや合理的配慮を前提とする学級経営・授業づくり

（児童が自分で選択できる環境づくり）

ア　Simple：焦点化

・学習内容の焦点化：１時間で学ぶ内容を１つに絞り，何をどのように学ぶのかを明示する。

・学習方法の焦点化：学習過程の明示（佐方小授業モデル），操作や活動の手順を簡潔に分かりやすく，「発問」の精選をする。

＜基本モデル＞

佐方小授業モデル

① 課題をつかむ 情報収集	問題提示の工夫・気付き(情報)の交流→めあての設定
② 整理・分析	●比較 ●分類 ●関係付け ●理由付け 【共有の場面の工夫】 個人思考⇒共有 （ペア・グループトーク つなぎ発言の活用等）
③ 表現・まとめ	考えを表現し，学年や内容に応じてまとめる
④ 振り返り	振り返りの視点を明確に・振り返りを交流する

イ　Visual：視覚化

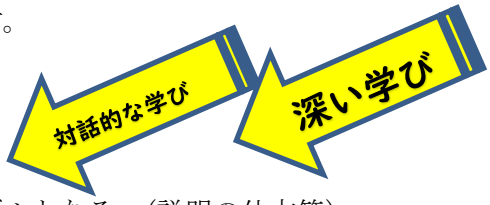
・絵や図，シンボル，モデリングを活用した板書や活動：内容をイメージしやすくする。

・ワークシートの工夫：視覚的に捉えやすい配置にする。

・板書の構造化：「今何をしているのか」を捉えやすくする。

・シンプルな掲示物：前面は，年間を通して掲示しておく必要があるものだけにする。背面は，児童生徒の作品等足跡を肯定的に評価する動的な掲示に。側面は学習に必要な情報を提示する。

・教師や児童用の机，棚周りの整理整頓：教師が集めた宿題のノートや足元の荷物を整理する。児童ロッカーの整頓の仕方を写真や図で示す。



ウ　Share：共有化

・学習活動の共有：共に学習を行う児童生徒がモデルとなる。（説明の仕方等）

・学習内容の共有：ペアやグループ活動で学習内容を共有する。（学習活動を見通し，効果的に伝達するミニリーダー的要素の育成）

全体共有の場面で，聞き方の指導とつなぎ発言の指導を行う。

・教科横断的なカリキュラムマネジメント：教科，外国語活動，総合的な学習の時間，特別の教科道徳，学校行事を関連付けた指導を効果的に行い，学年ごとに作成した年間指導計画を，学期ごとに校内研修で振り返りながら評価，改善をし，学年間で共有する。

７　研究方法

（１）理論研修

・学習規律，研究構想，計画を提示し,職員の共通認識を図る。
・校内研修で行う授業研究の事前，事後協議をする。また，模擬授業を行う。
・授業研究で付けたい力，言語活動の充実,「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について協議する。
・外部講師を招いて，教材研究や授業づくりについて研修する。

（２）単元開発・授業改善

・国語科「C読むこと」における「思考力・判断力・表現力」について考える。
・児童が主体的に活動する言語活動の工夫について考える。
・互いの「思考・判断力・表現力」を高める「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について考える。
・定期的な各教科の年間計画の見直しと教科横断的な単元開発をする。
・児童の実態を基に，単元でつまずきそうな部分や付けたい力を指導案に明示する。
・単元終末における児童の目指す姿を指導案に明示する。
・単元構想シートを活用して,「本質的な問い」に基づいた一貫性のある単元計画を行う。

８　検証について

（１）検証の視点

ア　取組の検証

・授業のねらいや学習内容，評価規準は付けたい力に対して適切であったか。
・言語活動を充実させるための工夫は適切であったか。
・個別最適な学びや協働的な学習場面の工夫は適切であったか。

イ　成果の検証

・国語科における「思考力・判断力・表現力」が身に付いたか。

（２）検証方法

・廿日市市学力定着状況調査【国語科】の「思考力・判断力・表現力」の観点の問題による評価（廿日市市平均と比較し，上回っているか。昨年度の数値より上回っているか。）
・児童・教師の意識調査（肯定的評価をした児童・教職員の割合が 80%以上）